

# 日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No.28

平成29年12月24日

発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

## CONTENS

- ・ 平成29年度 日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告
- ・ 平成29年度 日本仏教社会福祉学会 第52回学術大会報告
- ・ 平成29年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告
- ・ 平成30年度 日本仏教社会福祉学会 第53回学術大会案内
- ・ 『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会
- ・ 『日本仏教社会福祉学会年報』投稿論文の募集
- ・ 編集後記

### 平成29年度 日本仏教社会福祉学会 第2回 理事・役員会報告

日時：平成29年9月8日（金）  
15：00～17：30

場所：種智院大学

出席 代表理事 清水海隆

#### 個人理事

長谷川匡俊	石川到覚	宮城洋一郎
池上要靖	落合崇志	野田隆生
鷲見宗信	長崎陽子	栗田修司
新保佑光	藤森雄介	

#### 団体理事

長上深雪	宮崎牧子	小島恵昭
渋谷 哲	吉村彰史	

#### 監事 梅原基雄

名誉会員 中垣昌美

事務局長 吉村彰史（団体理事兼任）

欠席 個人理事 田宮仁 監事 山口幸照

#### 議事報告

事務局：開会の宣言。出席理事の確認。

##### 1 定足数の確認

理事役員数の2分の1以上の出席。理事会規定第6条に基づき本理事会は成立。

代表理事：皆さま、理事会にお運びいただきありがとうございます。特に、今大会の準備にあたり種智院大学の宮城先生をはじめ、関係の皆さまにはお忙しい中さまざまにご準備・ご手配を賜りまして、誠にあり

がとうございます。実り多き大会になりますよう、理事・監事・役員の方にもご理解・ご協力を賜ることができればと思っておりますので、どうぞよろしくお申し上げます。

事務局：議長の選出は理事会規定に基づき、代表理事をお願いいたします。

#### 2 議案

##### 第1号議案 会員の異動について

###### （1）入会会員の承認について

事務局より、次の個人会員6名・団体会員1団体の入会の申し出が説明され、承認された。

#### 個人会員（順不同）

- ・ 高橋 賢充（北海道大学）
- ・ 高橋 マツ子（桐生医療保健大学）
- ・ 高橋 知恵（浅草寺福祉会館）
- ・ 刀禰 法城（浄土真宗本願寺派浄願寺）
- ・ 宮坂 直樹（浄土宗総合研究所）
- ・ 中村 悟眞（大正大学大学院）

#### 団体会員

- ・ 真言宗善通寺派宗務庁



**(2) 退会会員の承認について**

事務局より、次の個人会員2名・団体会員1団体のから退会の申し出が説明され、承認された。

個人会員(順不同)

- ・田畑 正久(龍谷大学大学院)(定年によるご退職のため)
- ・田代 俊孝(同朋大学)

団体会員

・高野山大学(受け皿となる学科がなく、仏教社会福祉を専攻する担当者が不在となったため)

**(3) 会費未納会員について**

事務局より、以下の通り説明される。

平成29年9月6日現在、5年以上の未納者6名、4年未納9名、3年未納6名、よって3年以上の未納者の合計は21名となっている。また、学会規定では「退会を希望する者は事務所に通告して退会するものとする。但し如何なる場合でも既納の会費は返納しない」「会費を三年以上にわたって滞納した者は、理事会において退会したものとみなすことがある」とある。今回、事務局提案として、5年以上の未納者6名については会員継続の意思がないものとし、退会とし、4年未納、3年未納の合計15名に対しては再度、会員継続の意向を尋ねることとし、意思がある場合は平成29年度の会費納入をもって継続の意思があるものと認める。また未納分の会費納入の時期については配慮する。継続の意思がない旨の返信があった場合や返信がなかった場合は、次回、来年の春の理事・役員会でその情報を共有し退会としたい。

**意見:** 学術会議の登録団体として一定の規模が必要であり、極端に数が減るといえる差し支えがあるのでもう少し様子を見ましょう、という経緯であった。しかし限度があるので、今回のようにある程度筋を通していく時期に来ているのではないかと思う。

**意見:** 我々の時代は、とにかく一人でも多く入会し学会を盛り上げていただきたいという願いを持ちながら入会を勧めてきた経緯がある。

**意見:** 退会について「こういう理由で退会する」という届けを出して、文書で確認をし合うというやり方を取っている学会もある。

議長より、以下の三点が提案され承認された。

以下の5年以上未納者6名は退会とする。

- ・ムコパディヤーヤ ランジャナ
- ・大河内 大博
- ・笠原 俊典
- ・小峰 彌彦
- ・小森 晃
- ・鶴飼 泉道

田代会員に関しては、退会の承認を保留し、手紙等で再度、意志を確認する。

退会届の書式を作成し、HPにアップしていく。書式については、次回、春の理事・役員会に示す。

この結果、会員数は以下の通り。

個人会員 207 + 6 - 7 = 206名  
 団体会員 22 + 1 - 1 = 22団体  
 合計 228会員

**第2号議案: 平成30年度事業計画(案)および平成30年度予算(案)について**  
事務局より、平成30年度事業計画(案)が以下の通り説明された。

第1回理事役員会は立正大学品川キャンパスで4月28日(土)予定。第2回理事役員会、総会は身延山大学で開催予定、日時は未定。

年報刊行事業は、年報第49号の刊行。

研究助成事業は、『仏教福祉学入門』を活用した勉強会の開催と、第6回の学会賞授与がある。学会賞に関しては会員の積極的な推薦をお願いしたい。

第53回学術大会は、身延山大学で予定。

広報事業は(1)ニュースレターの発行、(2)ホームページの維持管理。本年度は新たに(3)メーリングリストによる情報提供を開始する。

研究事業は(1) 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト、(2) 仏教社会福祉学研究史(仮)プロジェクト、(3) 『日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発プロジェクト』(東日本大震災対応プロジェクトから名称変更)。

学会事業担当は、年報編集 = 栗田理事。研究担当は(1) 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト = 新保理事。(2) 日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発プロジェクト = 藤森理事。(3) 『仏教社会福祉入門』の勉強会 = 梅原幹事(関東)・長上理事(関西)。(4) 『仏教社会福祉学研究史(仮)』 = 池上理事。

・次いで、同予算(案)が以下の通り説明された。

**収入の部**：前年度繰越金5万600円。個人会員費は暫定211口。団体会員費は22口。雑収入、年報売上金と含めて5万円。収入の計は暫定244万9600円となる。

**支出の部**：第53回大会の助成金。年報刊行費100万円。研究費、これは『仏教社会福祉入門』勉強会の際の経費等として10万円。事務費は以前の金額に戻して3万円。学会賞賞金として15万円。

**意見**：学会賞の審査対象の書籍を購入し、選考委員にお渡しする場合のことを考えて、予備費として2万円を組み込んだ方が決算時に実態に合うと思う。

**意見**：予算を見ると、期待値がかなり含まれている収入であり、相当窮屈になってくる可能性がある。寄付を募るとか、維持会費を新たに設けるなど、検討されたい。

・議長より、維持会員については検討中。もう一方で、団体会員の方でもっと現場の方々、実践者の方々を取り込みたいと考えている。4月には何かご提案できるようにしたい。理事・役員には、所属あるいは知り合いの宗派で施設や団体について、入会案内の具体的な送り先の情報をご提供いただきたい旨発言がなされ、

本件は一部修正の上、承認された。

**第3号議案：メーリングリストの登録について**

事務局より、現状、事務局が会員のメールアドレスを全て把握しているとは言えない。今後、文献目録の電子化やウェブ化に関するやり取り、日本学術会議などからのご案内や学会からの連絡等、学会活動の円滑化を促すために、会員のメールアドレスを再度把握したい旨提案される。(詳細は同封の別紙参照)

議長より、パスワードは事務局で管理し、必要に応じて担当理事にもお伝えするという方向で運営していきたい旨発言がなされ、本件は承認された。

**第4号議案：会員の種別について**

議長より、予算状況も踏まえ、維持会員・定年で退会される会員と定年のない僧侶・実践の方々の新規入会について等、色々考えると行き詰まっているので、この件については次回まで保留にさせていただきたい旨発言され、本件は取り下げられた。

**第5号議案：平成30年度 第53回大会について**

議長より、身延山大学でお引き受けくださる旨発言され、承認された。あわせて身延山大学所属の池上理事より、9月1週目に日本印度学仏教学会、2週目に日本社会福祉学会、3週目は大学の特別な講習期間のため、日程調整したい旨発言があり、議長より、関連学会や大学日程を踏まえご検討いただきたい旨要請された。

**第6号議案：平成31年度 第54回大会について**

議長より、今回が京都、次回が山梨なので、第54回大会は関東になる。大学に限らなくともよい。団体会員の中で、例えば浅草寺福祉会館様等での開催は可能かとの発言あり。

**意見**：今回、団体会員で入会した善通寺宗務庁様は、おそらくいろんな会を開催されている。31年度になるかどうか別として、近い将来お引き受けいただけない

かという話も少し早い時期から進めておくことがいいように思う。今まで四国でやったことはないので、輪が広がる可能性もある。

議長より、善通寺宗務庁様については宮城理事から是非、その旨お口添えをお願いしたい旨発言があり、第54回大会については事務局で調整する方向が承認された。

### 第7号議案：その他

#### 大会開催時における災害対応について

議長より、大会開催時、暴風警報等が発令された場合、今後はメーリングリストで早急に情報・連絡を流す、という形で対応していく旨説明され、本件は承認された。なお、区域設定は気象庁が定める都道府県の一次細分区域に基づく。

#### 年報記載記事の転載について

議長より、淑徳大学から石川会員の原稿の転載希望があり、そういうことによつて当学会の活動の周知が進むことはよいことであり、代表理事・事務局で承諾したので、転載許可についてご追認いただきたい。また今後、こうした書類が必要であれば整えていく旨説明され、本件は承認された。

### 3 報告事項

#### 各担当理事の報告

(年報編集・査読) 栗田担当理事より、以下の通り報告された。

(1) 年報48号の発行に向け、印刷中のものが1本、再査読のものが1本、査読済みのものが1本。引き継ぎの関係もあり遅くなっているが、12月末を目標に現在進めている。また査読委員として1名、統計的なものの関係で、淑徳大学・斉藤鉄也会員にお願いした。内規では委員長が委員を指名するとあり、慣例にしたがつて理事会でご報告させていただく。

(2) 年報49号についても同様に、平成30年12月末を目標に進めていく。投稿推薦者については編集委員会で推薦があれば決めたい。一般投稿についても、宮城理事にお願いして明日の大会の後、お声掛けをさせていただく。

(3) 今後、一般の団体の方々、現場の方々

を含めて会員を増やしていくということになると、その方々をぜひ研究のほうに導くということも含め、分かりやすい事例研究の報告の書き方・論文の書き方について何か一つでもサポート体制を整えたい。明後日の編集委員会で議論し、次回の理事会で報告したい。

(4) 査読に関して、査読のプロセス・書き方について統一できるように検討したい。また、規約の中で既に査読者になられている方に対し、3年経過した後の再委嘱の方法について取り決めがなかったので、再委嘱について今後、理事会のほうで検討してほしい。

(5) 年報の電子化を検討していく必要がある。冊子を全て電子化してしまうという意味ではなく、J-STAGEとかいうようなものに少し電子化して、どなたでもアクセスが可能な形を取れないか、検討していく必要がある。

(6) 編集作業の効率化・迅速化に向けて検討していく。

意見：査読にあたり、委員を選び出すためには、各自の専門領域をキーワードで並べて、この領域が得意とかいうデータがないと、お願いする方もなかなか難しいのではないかと。

意見：他の学会では、依頼状の中に、査読のできる分野を二つ三つ書いてくださいと書くところもある。

議長より、査読者の選考については、ご意見の方向で今後進めてほしい旨要請された。

#### 編集委員会 (2017～2019年度)

委員長：栗田修司

編集委員：大久保秀子・清水隆則・長崎陽子・藤森雄介

査読委員：池上要靖・石川到覚

井村圭壮・梅原基雄・大久保秀子・小笠原慶彰・長上深雪・菊池正治・栗田修司・斉藤鉄也・佐伯俊源・佐賀枝夏文・櫻井治男・清水海隆・田代俊孝・谷山洋三・田宮仁・長崎陽子・奈倉道隆・林俊光・原田克己・藤森雄介・三友量順・宮城洋一郎・村井龍治(五十音順)

(仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト)新保担当理事より、以下の通り報告された。

本プロジェクトは前のめりに進めるよりは、ある程度いろんな方と相談しながらコンセンサスを得て進めていった方がいいという印象を受けている。そこで今年度は、去年同様、淑徳大学の『アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する研究』への協力を中心にしながら、この領域に関心のある先生方と相談をしていき、今年度中には新たな仏教ソーシャルワークプロジェクトの研究体制作りを固めていきたい。

(「日本と地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」プロジェクト【略称「国内開発」】)藤森担当理事より、以下の通り報告された。

具体的には2つの事業を進めている。

東日本大震災を契機とした地域社会、社会福祉協議会と宗教施設、仏教寺院、神社などとの連携に関する調査。これについては岩手、宮城、福島県の3県の被災自治体42市町村の各社会福祉協議会さんへのアンケート・ヒアリング調査ということで、昨年11月から本格的に、それぞれアンケート調査と合わせて訪問を行い、この8月30日に42市町村を全て回り終えた。日曜日の分科会で中間報告をする。

仏教社会支援活動プラットフォームについては、3月末から開設して稼働を始めている。それに合わせて全日本仏教会主催『寺院と災害支援を考えるセミナー』に私が講師として参加させていただき、このサイトの機能や役割等について説明させていただく。それ以外にもいくつか関連団体等に広報活動的なことは行っているが、実際の登録の運用で作業が少し滞っており、早急に対応したい。なお、浄土宗社会福祉推進事務局や、曹洞宗「曹洞禅ナビ」、高齢者関係施設を運営している寺院を中心に、プラットフォームを活用したいというお問い合わせもいただいている。

また、10月に福島県で財団法人全日本仏教会の創立60周年記念と併せて第44回日

本仏教徒会議福島大会が開催されるので、その際にもチラシを配布し関係の方に挨拶する機会を設けている。それ以外にも、それぞれの教区の集まり等にお声掛けいただける所には積極的に参加し、こういった情報共有の場を設けましたので活用いただきたいという旨をお話しして、まずは登録数を増やしていく。またこの学会との連動のほうも、事務局とも相談して考えていきたい。

(『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会)長上担当理事より、8月3日に龍谷大学で開催した(「医療と福祉におけるエンゲージドブディズム」)。テキストからではなく、仏教者の社会的実践に学ぶということで、臨床宗教師の方をお招きして開催した旨報告された。あわせて、長崎理事より、福井県のオレンジホームケアクリニックという訪問医療を専門とする施設で活動されている臨床宗教師の木下克俊師を講師としてをお呼びした。全く仏教に関係のない施設で、全く仏教に関わりを持っていない先生が運営されている医療施設だが、宗教的な何かが必要だということで、天台宗のお寺で2年間ご修行なされていた木下師をお迎えになられた。訪問医療施設における臨床宗教師の活動事例報告に加え、現状の限界も示していただいた旨報告された。なお、8月3日分は龍谷大学アジア仏教文化センターとの共催ということで、そちらから交通費と謝礼等が出ており参加者も15、6名と盛況だった。今後、もう1回ぐらい関西で開ければと思っているが、未定とのこと。

事務局報告 平成29年度総会について  
議長より、渋谷理事に議長をお願いしたい旨、要請された。

その他 日本社会福祉学会連合補助金制度について

議長より、学会から講演等依頼する場合の旅費の一部を補助する制度として、5万円を限度として年度1回使える制度ができたので、お知りおきいただき、今後

ご利用になる場合はご一報いただきたい旨、報告された。(詳細は日本社会福祉系学会連合のホームページ、補助金制度のところをご覧ください。<http://jaswas.wdc-jp.com/about/subsidy.html>)

平成29年度 日本仏教社会福祉学会  
第52回 大会報告

【大会概要】

1. 大会テーマ：  
「社会福祉法以後の課題と仏教社会福祉」
2. 大会日時：  
平成29(2017)年9月9日(土)～10日(日)
3. 大会会場：種智院大学  
(京都市伏見区向島西定請70)

【大会日程 1日目：9月9日(土)】

- 10:00～ 受付
- 10:30～10:45 物故者慰霊法要(401)
- 11:00～12:00 記念講演(公開)(306)  
大本山中山寺長老・学校法人綜藝種智院理事長・種智院大学学長  
村主康瑞 先生 「宗教と福祉」
- 13:00～16:50 基調講演・シンポジウム(306)  
宝山寺福祉事業団理事長  
辻村 泰範 先生  
「仏教社会福祉」の実践を求めて  
～社会福祉法人制度改革がもたらすもの～

【物故者慰霊法要の様子】



14:00 シンポジウム

【地域福祉の立場から】

種智院大学 明石 隆行 先生

認知症高齢者を地域で支える権利擁護の現状と課題～成年後見制度における市町村の責務～

【障害者福祉の立場から】

龍谷大学 村井 龍治 先生  
「個人の尊厳」はどうかされたか

【教団の立場から】

真言宗善通寺派宗務総長・社会福祉法人弘善会理事長  
菅 智潤 先生  
社会福祉法人弘善会の運営について

【コメンテータ】

龍谷大学 長上 深雪 先生

【司会・進行】

種智院大学 佐伯 俊源 先生

17:00～17:50

日本仏教社会福祉学会 総会(306)

18:00～19:30

学会懇親会(食堂)

【大会日程 2日目：9月10日(日)】

分科会 9時～12時30分

(8時30分受付開始)

報告時間：発表20分、質疑応答10分  
前半3報告・休憩10分・後半4報告

第1分科会(司会 山口幸照・梅原基雄)

「ビハーラ活動における歴史と課題  
西本願寺のビハーラ活動を中心として」  
社会福祉法人至心会 野村康治

「施設での看取りケアに関する考察」  
名張市役所福祉こども部地域包括支援センター 佐伯典彦

「看取りの場である特別養護老人ホーム職員・施設長の仏教・宗教への意識」  
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科  
修士課程 奈良修三

「高齢者福祉施設における仏教的ケアの可能性」大正大学 高瀬顕功

「福祉現場における法話活動に関するケアマネジメントの視点からの一考察」  
種智院大学 溪村真司

「人口減社会における墓所管理の新たな形態 長崎県内の寺院における事例を基にして」長崎国際大学 佐々木隆夫/同 脇野幸太郎

「社会福祉法人・寺院の連携による『終活』支援のあり方 岩手県での地域貢献事業を通して」岩手県立大学 宮城好郎

**第2分科会（司会 長崎陽子・池上要靖）**

「人材の国際化に関する一考察」龍谷大学アジア仏教文化研究センター 桑原昭信

「仏教系大学における地域福祉活動の意義～認知症カフェを立ち上げて～」身延山大学 榎木博之 / 同 池上要靖

「浅草寺福社会館における総合相談の可能性 相談内容の分析から」浅草寺福社会館 大塚 明子 / 同 金田寿世 / 同 渡邊智明 / 同 井手友子 / 同 高橋知恵 / 同 平田 真紹 / 同 壬生真康 / 帝京科学大学 浅沼太郎 / 大正大学 石川到覚

「ソーシャルワークの価値定義と仏教の思想」龍谷大学 長崎陽子

「大石順教と障害者差別」密教福祉研究所 山口 幸照

「東日本大震災を契機とした、地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社等)との連携に関するアンケート調査(報告1)」淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 藤森雄介 / 同 渡邊義昭 / 大正大学 鷲見宗信 / 浄土宗総合研究所 宮坂直樹 / 宮城県女川町社会福祉協議会 須田めぐみ / 全日本仏教青年会 中村悟真

「東日本大震災を契機とした、地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社等)との連携に関するアンケート調査(報告2)」淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 渡邊義昭 / 同 藤森雄介 / 大正大学 鷲見宗信 / 浄土宗総合研究所 宮坂直樹 / 宮城県女川町社会福祉協議会 須田めぐみ / 全日本仏教青年会 中村悟真

**平成29年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告**

第52回大会が開催され、初日の17時から17時50分まで、平成29年度総会が行わ

れた。

渋谷 哲理事が議長に選出され、平成28年度事業報告及び決算、平成30年度事業計画及び予算について議事が進められた。梅原監事による会計監査も報告された。また、メーリングリスト登録について事務局から提案された。

報告事項としては、会員の異動や担当理事・役員会からの報告がなされた。フロアからは、学術の研鑽とは違った、生活や現場の中で仏教の思想や言葉を大事にしている方々も集まりやすい場となっ  
てほしいという旨の要望も出された。来年度の大会開催校である身延山大学の池上理事からは挨拶があり、発表の場を広げ、ポスターセッション等についても検討することが伝えられた。

審議された議案3件、報告事項5件については、全件が承認された。

**平成30年 第53回学術大会について**

平成30年 9月29日(土)～30日(日)

場所 身延山大学

(山梨県南巨摩郡身延町身延3567)

詳細は、平成30年4月の理事・役員会で決定されます。

**『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会**

本学会編のテキストを活用した勉強会が、毎年、関東地区・関西地区の2か所で開催されています。予定が決まり次第、事務局よりご案内申し上げますので、奮ってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

**『日本仏教社会福祉学会年報』  
投稿論文の募集**

投稿規定

- (1)本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。
- (2)投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・書評・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。
- (3)本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。

- (4) 投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。
- (5) 投稿に際しては、印刷原稿3部を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。
- (6) 執筆上の細目は原則、次の通りとする。論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名また巻・号、発行所、発行年、ページの順とする。図表については、掲載順に番号と題名を付し、掲載箇所に添付する。
- (7) 執筆者が抜刷を希望する場合は、実費とする。ただし、「基調講演」、「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。

投稿希望の会員は、事務局までご一報ください。宜しくお願い致します。

#### 編集後記

赤城おろしが吹くとともに、寒さが一段と増してきます。熊谷を照らす黄金の夕日が、研究室に一筋の光を届けてくれます。夏の京都、種智院大学で開催された学術大会、そして総会。写真と資料を振り返りながら、改めて時の経つ速さを感じます。

大変遅くなりましたが、ニュースレター28号をお届けいたします。

本学会がますます発展・円熟していくためには、継続的に取り組んでいかなければならない課題が山積しています。生活の中で仏教を大切にされている方々、実践のフィールドで日々活躍されている方々においても、本学会に関心を持ってもらえるように精進しなければと思

ます。自他共に充実した研究活動や活動報告の場となるように、プロジェクトへのご参加や、今回のメーリングリストの登録など、会員の皆さまには格別のご理解・ご協力を得られれば幸いです。

末筆になりましたが、会員各位のますますのご健勝をお祈り申し上げます。  
(事務局)

#### 日本仏教社会福祉学会

発行日：平成29年12月24日

発行：日本仏教社会福祉学会  
事務局

〒360-0194

埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学 社会福祉学部内

TEL：048-536-1328（代）

FAX：048-536-2522（代）

yoshimura@ris.ac.jp

ラム・プラス)にも参加した。

### 3 成果

本フォーラムの主たる目的は次の2点、すなわち、本研究所が各国調査チームに対し平成28年度末に提出を求めている最終報告書の進捗の確認、及び 仏教ソーシャルワークのワーキング・フレームワークの検討、でありいずれも達成できた。

フォーラム開催にあたって各調査チームに対して20分のプレゼンテーションとプレゼンテーションの要約の提出を求め、発表資料(パワーポイント)については全て日本語に翻訳し英文資料とともに会場にて配布された。これらの資料と、母国語による発表者については通訳を自国から帯同したことにより、各参加者は言葉の壁を越えての活発な意見交換が実現した。

また、22日夕方の記者会見において参加者らにより「アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワーク」結成が宣言された。本プロジェクトを通じて交流が始まった研究者・参加者がフォーラムという場で一堂に会することにより情報交換の重要性をそれぞれが再認識し、国際会議の共同開催や人材交流、更なる共同研究の提案が交わされた。各参加者は人材交流や情報の共有などの面で、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所がハブとして機能することにより本ネットワークの活性化が図られるとし、本研究所の今後の活動へ大きな期待を寄せていた。

#### 「仏教社会的実践活動プラットフォーム」について

仏教社会的実践活動プラットフォームは、宗派教団の垣根を越えた情報共有や交流の「場」づくりを目的としたプラットフォームです。

「仏教では、生きとし生けるものを慈しみ、さまざまなご縁によって生かされていることを感謝し、他に奉仕することを説いております。日本においても、このお釈迦様の教えを実践する数多くの団体が、多岐にわたる社会活動、支援活動をされています。

しかし、これまでその宗派教団の垣根を越えた、インターネット上のネットワークは、残念ながら存在しておりませんでした。

そこで、地域社会の中で日頃から行われている仏教関係団体の社会的実践活動とその記録を一堂に集めてご紹介し、お互いに情報交換や情報共有をして、ゆるやかな連帯・協働をはかるご縁となる「場」を提供することで、活動のより一層の活性化や社会への認

知を図るとともに、一般の利用者の方々に對しては、身近なサービス情報やボランティア情報を得ることのできるプラットフォームを構築することを考えました。

私達は阪神淡路大震災、東日本大震災をはじめとする未曾有の災害も体験して参りました。

日頃から緩やかなつながりを持つこうした社会基盤こそ、将来、緊急災害時にも必ずやお役にたてるものと確信します。

もちろん仏教徒ではない団体や公的機関もご参加、ご活用できます。また、信仰を問わず、どなたでもご利用できます。幅広い層の方々にご利用いただき、ご縁を支え、ご縁を広げるプラットフォームとなることを願ってやみません。平成29年3月」

運営主体：淑徳大学アジア国際社会福祉研究所  
アジア仏教社会福祉学術交流センター  
<https://bukkyoplatform.com/>

#### 日本社会福祉系学会連合 2017年度 総会

開催日時：2017年5月28日(日) 17:10~17:50  
開催場所：明治学院大学 白金キャンパス  
本館3階1310教室

#### 審議事項

1. 運営委員の交代について
2. 2016年度事業報告について
3. 2016年度決算および監査報告について
4. 新入会希望団体について
5. 補助金制度について
6. 2017年度事業計画について
7. 2017年度予算について
8. その他

#### 報告事項

1. 加盟学会の平成29年度の活動予定のホームページ掲載
2. 災害福祉アーカイブについて
3. その他

2017年度の運営委員は以下の9名です。

会長 黒木保博(日本社会福祉学会)  
事務局長・学術会議担当

湯澤直美(日本社会福祉学会)

庶務担当 後藤広史(日本社会福祉学会)

広報担当 小櫃俊介(日本社会福祉学会)

会計担当 渡辺裕一(日本地域福祉学会)

研究担当 小林良子(日本司法福祉学会)

研究担当 高野和良（日本社会分析学会）  
研究担当 志賀利一（日本職業リハビリテーション学会）  
幹事 田中英樹（日本精神障害者リハビリテーション学会）

『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会

本学会編のテキストを活用した勉強会が、毎年、関東地区・関西地区の2か所で開催されています。関西地区については8月3日、龍谷大学にて開催予定です。関東地区についても、予定が決まり次第、事務局よりご案内申し上げます。ふるってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

日時 8月3日（木）16時より

テーマ 医療と福祉におけるエンゲージドブディズム

講師 木下克俊（臨床宗教師）

詳細は別紙のご案内をご覧ください。

『日本仏教社会福祉学会年報』

投稿論文の募集

投稿規定

- (1)本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。
- (2)投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・書評・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。
- (3)本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。
- (4)投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。
- (5)投稿に際しては、印刷原稿3部を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。
- (6)執筆上の細目は原則、次の通りとする。  
論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。  
本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。  
長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。  
引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名または巻・号、発行所、発行年、ページの順とする。  
図表については、掲載順に番号と題名を付

し、掲載箇所に添付する。  
(7)執筆者が抜刷を希望する場合は、実費とする。ただし、「基調講演」、「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。

投稿希望の会員は、事務局までご一報ください。宜しくお願い致します。

事務局 編集後記

本年度より、事務局が立正大学へと移りました。事務局として不慣れな点多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

本ニュースレターの発行が諸事情により大変遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

さて、理事・役員会で審議・報告されたように、本学会がますます発展・円熟していくためには、継続的に取り組んでいかなければならない課題が山積しています。また対外的にも、本学会の存在が学術界においても、実践のフィールドにおいても、そして一般社会においても、その意義を示し、役割を十分に果せるように尽力していきたいと思ひます。そのためにも、会員各位のお智慧をお借りすることができればと思ひます。

末筆になりましたが、会員各位のますますのご健勝をお祈り申し上げます。